

何かの問題にぶつかっている方へ

問題解決のための5項目 納得の行く結果を得るために

勝龍寺では、毎日のように色々な方々の病気や身体の症状、怪我、悩みや困った問題についてご相談を受け、その問題を好転させるために助言をさせていただきます。

人の一生は長いですから、誰でも病気になるとか、困った問題に遭遇します。

病気になった時に薬があるとか、治療を受けられたり、病院に入院して応急処置を受けられるのは有り難いことです。

病気の人 救うために努力されている医療に携わる方々には感謝しております。

然し、現代の医学は科学的にということで、病気や症状を物理的に、化学的に探求しています。

それ 因縁因果の繋がりや病気や症状が出て来るとか、有縁の亡くなっている人の靈魂の訴えが子孫の病 症状として出て来ることを全く考えようとしないために、うつ病やノイローゼ、乳がん、テンカン、幻聴、症 (痴呆症) 等々が起きて来る因縁 (大本の原因) が分からなくなってしまう。

こういうことをも含めて、色々な病気や症状、悩み等の多くの問題解決に役立つ5項目を記します。

1、本人の問題か、家系の因縁が出ているか

最初に考慮すべきは、その病気や症状、怪我、悩み等の問題が、本人自身の自由意志の使い方の誤りから起きているのか、または、家系の因縁や亡くなっている人の訴えの影響から出ているかを、考えることであります。

イライラ、イライラしていたら胃の症状は悪くなります。

また、暴飲暴食で胃を痛めているなら、それらを改めなければ、胃が治りません。

これらは当たり前のことで、本人自身の自由意志の使い方の問題が出ています。

一方、何故だか分からないけれど肩が凝っている、何故だか腰に痛みが出る、うつ症状が出ている 家系の因縁や家系の亡くなっている方々の訴えが出ています。

昔から、「親の因果が子に報う」という格言がありますが、これは親や祖父母、曾祖父母等の造った因縁が子孫の問題として、また、子孫の身体に症状として出て来ることを意味します。

従って、病気や症状が出た時や何か問題が起きた時には、本人の自由意志の使い方の誤りの結果が出て来たのか、または家系の因縁の問題や家系の亡くなっている人の訴えが出て来ているかを区分して考えると、その解決法が分かり易いです。

なお、この区分けの判断をどのような基準とするかですが、その病気や症状や問題等が常識で理解出来ることであるならば、それは本人自身の自由意志の使い方の問題であり、常識を超えていることであるならば、家系の因縁や亡くなっている人の訴えが出ていると判断するのが良いです(勿論、両方が関している場合もあります)。

本人自身に思い当たることがあるならば、その改善を計ることで。

本人に思い当たることが無いならば、家系の因縁を考え、その改善を計ることで。

2、固有の因縁(大本の原因)を考える

次に、病気や症状、悩み、困った問題等は、それぞれ固有の因縁(原因)があると考えます。

この世の中の仕組みは奥が深いので、分かり難いこともあります。人生上の大事な問題について偶然がないと考えると、問題が解きやすいです。

もしも偶然が人生を左右するならば、世の人々は「どうせ偶然が人生を左右するのだから好きなことやって生きれば良いではないか」と考えて、皆が我が儘放題をするようになってしまいます。

そうなると人間社会は調和が保てなくなって、崩壊してしまいます。

この一例を考えても分かる通り、大事な問題で偶然はなく、病気や症状等にはそれぞれ固有の因縁(原因)があっても不思議ではありません。

同じ病気を病む人達には、心の持ち方や生活態度に共通することが有ります。

事例を幾つか挙げさせていただきます。

○腸を病む人は暗い気持ち、憂鬱な気持ち、暗い問題を持っている人が多いです。

それ故、暗い気持ちになる出来事でも、明るい気持ちを持つようにして生活をする、腸を病まないですし、腸を病んでいる人でも、早く良くなるということが起きます。

腸を病む人の固有の因縁は、暗い気持ちの持続と言えます。

○耳鳴りがする等で耳が聞え難くなる人がいます。

耳は他の人の言葉を聞くためにあります。

人の言う正しいことを聞かないとか、ある人の言う言葉を聞きたくないと思いつけていると、耳を本来の役割に使わないので耳が必要ないということですから、耳の機能が正常に働かなくなり、聞え難くなるということ 起きます。

つまり、耳の不具合の固有の因縁は、他人の言う言葉を聞かなかった因果が出ているということです。

なお、左耳が聞こえにくくなるか、右耳が聞こえにくくなるかによって、それぞれ意味が有ります。

左耳が不自由になるのは男性の言うことを聞かなかったということであり、右耳が不自由になるのは、女性の言うことを聞かなかった因果ということ です。

本人にそういうことが無いならば、耳の困った症状の因縁(原因)は、家系の亡くなっている人の訴えが出て来ています。

左耳に症状が出ている場合は「生前、人の言うことを聞かず、誤った生き方をした。迷惑をかけた人に詫びてほしい、私の罪障消滅を祈ってほしい」という、亡くなっている男性からの訴え(依頼)であり、右耳は亡くなっている女性からの訴えであります。

○怪我についても、大人の方が肋骨を折った場合、原因は交通事故でとか、ころんととか、物にぶつかってと言われますが、肋骨を折った人に共通するのは、ご本人が大変気性が激しいということです。

いくら正しい人でも、あまり気性が激しいとそれも咎めとなり、肋骨を折ることが起きます。

気性の激しさを改めるならば再び肋骨を痛めませんし、怪我をしている方は治りが早いです。

肋骨の怪我の固有の因縁は気性の激しさと言えます(子供の場合は親、祖父母等の因果が出ます)。

○結婚している若夫婦になかなか子供が授からない悩みも多いです。

その場合、家系に子供を嫌った因縁が有るならば、子孫に子供が授からないということが起きてても不思議ではありません。

ご両親や祖父母の方に中絶児があるならば、その因果で子供が授からないということが起きますので、そういう時は命の大切さを知らなかったことの不明を神仏、ご先祖様にお詫びして、水子に対して一生懸命お詫びと供養をすると良いでしょ

う。

それをして行きますと、その亡くなっている子供を元に戻すことはできませんが、その因果の悪影響が消えて、若夫婦に子供が授かるということが起きます。

○子供の結婚が順調にいかないというご家庭の場合、親や祖父母の方が結婚に関わる悪い因縁を造っているならば、子供の結婚話が順調に行かず、結婚出来ないということが起きます。

親が女性に対して大きな罪を造っている、憎まれているとか、中絶していて悪いとも思わず供養もしていないということがあれば、その悪因縁の解消を計らなければなりません。

なお、その家系に嫁いで来られた女性(祖母、曾祖母等)が苦勞した人生を送って、「この家に嫁いで来て辛かった。この家に嫁いで来なければ良かった」という後悔の思いを持って亡くなっていると、子供が結婚したいと思っても、相手の女性が結婚に踏み切ってくれないということが起きます。

後悔の思いを持って亡くなっている方が居られるならばお慰めして、ご苦勞をおかけしたことを当時の方々に代わってお詫びし、生前のご努力に感謝して、「どうかもうお詫びとご供養を受けて思いを離れて、成仏の道を歩んで下さい。」と申し上げて、その方を丁寧にご供養して行くと、結婚に障害となっているその因縁が消えて行きます。

以上、いくつか事例をあげさせていただきましたが、病気とか症状、怪我、悩み、問題等には、それぞれ固有の因縁がありますので、その因縁の改善を計ることが大事です。

3、供養を丁寧にする

愛情、労力、金銭、時間等を亡くなっている人の為に使うということが供養になることですが、毎日の仏壇での供養、お墓参り、お寺詣り、追善供養、また、写経して冥福を祈る、観音巡礼や四国遍路をして冥福を祈る等は供養になる真に良いことです。

私どもは問題の無い普通のご家庭の方にも朝晩15分間、仏壇でお経をあげてご供養なさることをお勧めしています。

現代の忙しい科学文明の時代に、1日合計30分またはそれ以上も仏壇の前でお経をあげるなど……と思われる方が多いでしょうが、供養に努めることは大事ですし、役に立ちます。

ご両親と祖父母の方が殆ど供養をしないご家庭の場合、子孫が神経症を病むとか、身体に亡くなっている人の訴えの困った症状が出るということが起きます。

子供さんが神経症を病んだら、それを治すのにご両親はどれほど時間を使うか

を考えるならば、朝15分の仏壇でのご供養でそういうことが避けられるなら、有り難いことです。

また、人の一生は長いですから、誰でも一生の間に、人生の大事な別れ道が何回かあります。

その大事な別れ道で選択した道を間違えてしまったという方の場合は、ご両親が、また本人も供養していない 神仏、ご先祖様の導きが出ていないということでもあります。

そして、人間の生命力、活力は神仏、ご先祖様からいただいています。

元気のない子供や青年がいるご家庭では、ご先祖様や家系の亡くなっている方々(水子を含めて)の供養を親御さんが時間をかけて丁寧にするのです。

そうするならば子供さんに活力が出て来ます。

供養する方は勿論のこと、伴侶の方や子供さんやお孫さんまでもご供養によって生命力を強く頂くことが出来、また良い功德を受けることが出来ます。

4、感謝すること

感謝の気持ちが有るか無いかということで、色々なことが大きく変わって来ます。人間生活のすべての基本が感謝の心であり、人間関係のすべての基本も感謝の心であります。

私どもは、病気で入院して 人に対しての助言として、「有り難うございます」という感謝の言葉を1日に千回言われることをお勧めしたり、1日に3千回言われるようにと助言します。

入院している方の多くは「この病気はどうなってしまうのだろう。家のことが心配だ。仕事のことが心 自分の思う通りにならない。病院ではやる事が無い。周りがあるさ。病院から出る食事が美味しく無い。夜はよく眠れない。等々……」と、入院している方の心境や状況は決して良いものではありません。

「有り難うございます」という感謝の言葉を丁寧に3千回言うならば「感謝の気持ちが湧いて来る。不安な気持ちが無くなって来る。一生懸命しているとお腹が空くので、病院から出て来る食事が美味しく食べられる。人の好意を素直に受けられる。一生懸命するとくたびれるので、夜はよく眠れる。……」というように、実行する人の心境がよくなり身体に好影響を与えます。

また、感謝する人は運勢が良くなります。

良いお医者さんに会える、丁度合った薬が貰えて早く快くなるというのも、その人

の運勢です。

昔から「有り難うございます」という感謝の言葉を1日1万回言くと奇跡が起きると言われています。

実際に実行された数の方が、素晴らしい結果を得ました。

5、関係者が素直になること

最後の5番目が、その病気や怪我や困った問題について関係する人達が素直な気持ちになると、その原因が分かりやすく、解決が早いということがあります。

正しいものを正しいと認めることが、病気や問題を早く解決することになります。その反対に関係者が素直な気持ちを持たず、その原因となる大本の因縁を伏せてしまうと、原因が分からなくなってしまうということが起きます。

世の中の仕組みに対して素直な気持ちになると良いです。

周りを生かす生き方をして善事に努め、なかったことの罪障消滅を計る。

そして、この世の中が因縁因果の世界であることを理解して、正しく対応するのが良いです。

以上の5項目について努力して行くならば、多くの病気や色々な問題の解決に大いに効果があります。